

様式第 13 号（第 9 条関係）

五島列島ジオパーク構想活動支援助成金
事業成果概要【公開用】

事業名	五島列島ジオパーク構想地における文化サイトの保全と活用に関する観光学的研究
事業の種類	調査・研究事業 / 普及・啓発事業 ※該当する事業に○を記載願います
所属・事業実施者	長崎大学環境科学部・深見聡
事業期間	令和 3 年 8 月 1 日 ～ 令和 4 年 2 月 1 5 日
関連分野	地理学、観光学、観光教育 ※事業の分野（地質学／考古学／普及・啓発／保全など）について記載願います
キーワード	島嶼ジオパーク、生物文化多様性、文化サイト ※事業に関するキーワードを 3 点程度記載願います
対象地	五島市福江島、奈留島、久賀島 ※事業対象の地区や地名（複数の場合は全て）を記載願います

※本様式にて提出の内容は五島列島ジオパーク推進協議会ホームページでそのまま公開いたします。

事業成果の概要

<調査・研究事業の場合>

1. どうして調べたのか（背景・目的）

ジオパークは、私たちの身の回りにある貴重な自然景観（貴重な地形や植物群）や、それらのもとに花開いた文化遺産などの見どころを大切に守り、伝え、地域に暮らす方や観光客など多くの人たちで共有していこうという仕組みです。この研究では、令和4年1月28日に日本ジオパークに認定された五島列島（下五島エリア）ジオパークで、これらの活動が続いていくために自然と文化がたがいに関係しあっている「生物文化多様性」という考え方に注目しました。そして、ジオパークの見どころのうち、とくに「文化サイト」の保全と観光などでのいかし方について、気をつけたいことは何かを提言したいと考え研究を進めました。

2. どうやって調べたのか（調査・研究手法）

この目的を果たすために、次の2つの方法で調査をおこないました。

(1) 文献・資料調査

2020 年末時点で、日本にあるジオパークのうち、五島列島と同じように範囲のすべてが島に位置するのが他に5地域（隠岐、伊豆大島など）、本土部と架橋された島嶼部をふくむ地域に南紀熊野、天草などが挙げられます。この他にも、ジオパークと似たような取り組みをおこなっている地域もあります。これら島のジオパークにある文化サイトの保全と利用の現状（よい点や問題点）を把握します。その上で、五島列島が学ぶべきことについて考察しました。

(2) フィールドワークの実施

(1)の内容と同時並行して、五島列島の文化サイトやその関連地（三井楽の円畑、堂崎天主堂資料館、奈留島の江上集落など）に足を運び、それらの保全と活用について、地域に暮らす方々を中心にインタビュー調査や現地調査をおこないました。

3. なにが分かったのか（結果と考察）

今回の調査をおこなった結果、①「文化サイト」には、どのような自然の条件があるのでこの場所や地域に独自の文化景観が形づくられたものの、あまり意識されずに（自然は自然、文化は文化、といったように）地域の方や観光客に認識されていること、②生物文化多様性という考え方がとても大切ですが、そのことを知るには観光客だけではなく地域に暮らす方々にもその視点を知っていただく教育（これを観光教育と言います）の充実が必要なこと、が分かりました。これらの点をふまえて、たとえば奈留島の江上集落は文化や歴史からみた特徴が有名ですが、地形図をみてもわかるように、複雑な地形や生活に必要な貴重なわき水、目の前に広がる海から魚介類を得やすいといった、自然を利用して文化が根づいた生物文化多様性があったことが理解できます。

また、他のジオパークと比べても、ただ観光客が増えるだけではなく、地域をよく知る機会が増えることで、文化サイトの保全と活用をはじめ、ジオパークの役割がもっと多くの方たちに広まっていくことがとても重要だと分かりました。



(上)奈留島の江上集落にある天主堂

(下)1/2.5 万地形図「漁生浦」(1973 年)